

## 5-2 東海・南関東地域の地震活動（1991年5月～10月）

### Seismic Activity in the Tokai and Southern Kanto Districts (May–October, 1991)

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division  
Japan Meteorological Agency

第1図(a)～(f)に、東海・南関東地域における1991年5月～10月の月別深央分布、第2図(a)・(b)に同年5月～7月と8月～10月の3ヵ月間震央分布、第3図に同年1～6月の6ヵ月間震央分布を示す。

この期間の特に目立った地震活動は、神津島—新島近海の本年4月23日～10月25日にかけての群発地震活動、茨城県沖の6月25日のM5.1と8月6日のM5.9、長野県東部の7月14日のM5.4、神奈川県中部の7月20日～24日の地震活動（最大地震M3.9・7月20日）、伊豆半島東方沖の8月20日～23日の群発地震（最大地震M2.3・8月20日）、東海道はるか沖の9月3日のM6.3などであった。これらについては、活動の詳細を本巻別項に掲載した。

東海地域は、東海道はるか沖のM6.3（9月3日）の地震を除けば、特に目立った活動はない。伊豆半島東方沖の8月20日から23日にかけての群発地震は、ごく小規模なものであった。伊豆大島近海も比較的静穏な状態が続いた。各月ごとの活動状況は次のとおり。

5月：この月のMの最大は、神津島近海のM4.9（27日10時14分）、深さはごく浅く最大震度は3（三宅島）であった。東海地域は、静岡・山梨県境付近（B領域内）<sup>註1)</sup>で11日にM3.9の地震（無感）のほか、M3クラスの地震が愛知県と東海道はるか沖でそれぞれ2個発生した。周辺地域では神津島近海の群発地震（27日～31日）のほか、埼玉及び奈良両県でそれぞれM4クラスの地震が発生しているのが目をひく。

6月：Mの最大は東京湾のM4.6（28日20時11分）、深さ68kmで最大震度2（東京・宇都宮・水戸・網代・日光・勝浦・柿岡）。東海地域は、浜名湖付近で発生した11日のM3.2（無感）と伊豆半島南方沖の小活動（11日～17日）が目をついた。後者の最大地震はM3.9（17日02時53分）で最大震度1（御前崎）。このほか、M3クラスの地震が東海道はるか沖で2個、愛知県で1個発生した。周辺地域では新島近海の群発地震（20日～23日）、東京湾（前記）や奈良県及び茨城県沖に発生したM4クラスの地震が目をついた。

7月：Mの最大は茨城県沖のM4.1（20日01時28分）、深さ36kmで最大震度2（水戸・柿岡）。東海地域は、前月に比べ特別な変化はないが、静岡市付近（B領域内）で1日にM3.2（無感）と静岡県南西部で6日にM3.6（無感）及び28日にM3.4（無感）の地震が発生した。このほか、M3クラスの地震が愛知県や東海道はるか沖で各1個観測された。周辺地域では、神奈川県中部の地震活動（20日～24日）や茨城県沖のM4クラスの地震のほか、新島近海から八丈島西方沖にかけての活動が目をついた。

8月：Mの最大は茨城県沖のM5.9（6日23時49分）、深さ43kmで最大震度4（銚子）。東海地域は、特に目立った活動はないが、静岡・山梨県境付近（B領域内）で2日に発生したM3.3（無感）

の地震と静岡県西部で15日から始まった小活動<sup>注2)</sup>が目をはひく。このほか、愛知県から岐阜県南部にかけてにぎやかで、M3クラスの地震が3個発生した。周辺地域では、B領域の東側をとりかこむように、山梨県北部から新島近海にかけてにぎやかで、M3クラスの地震が4個観測されたほか、伊豆半島東方沖では約2年ぶりにごく小規模だが群発地震(20日～23日)が発生して注目された。また、M4クラスの地震が、東京湾や茨城県南西部とその沖合(前記)のほか、滋賀県西部に発生して目をひいた。

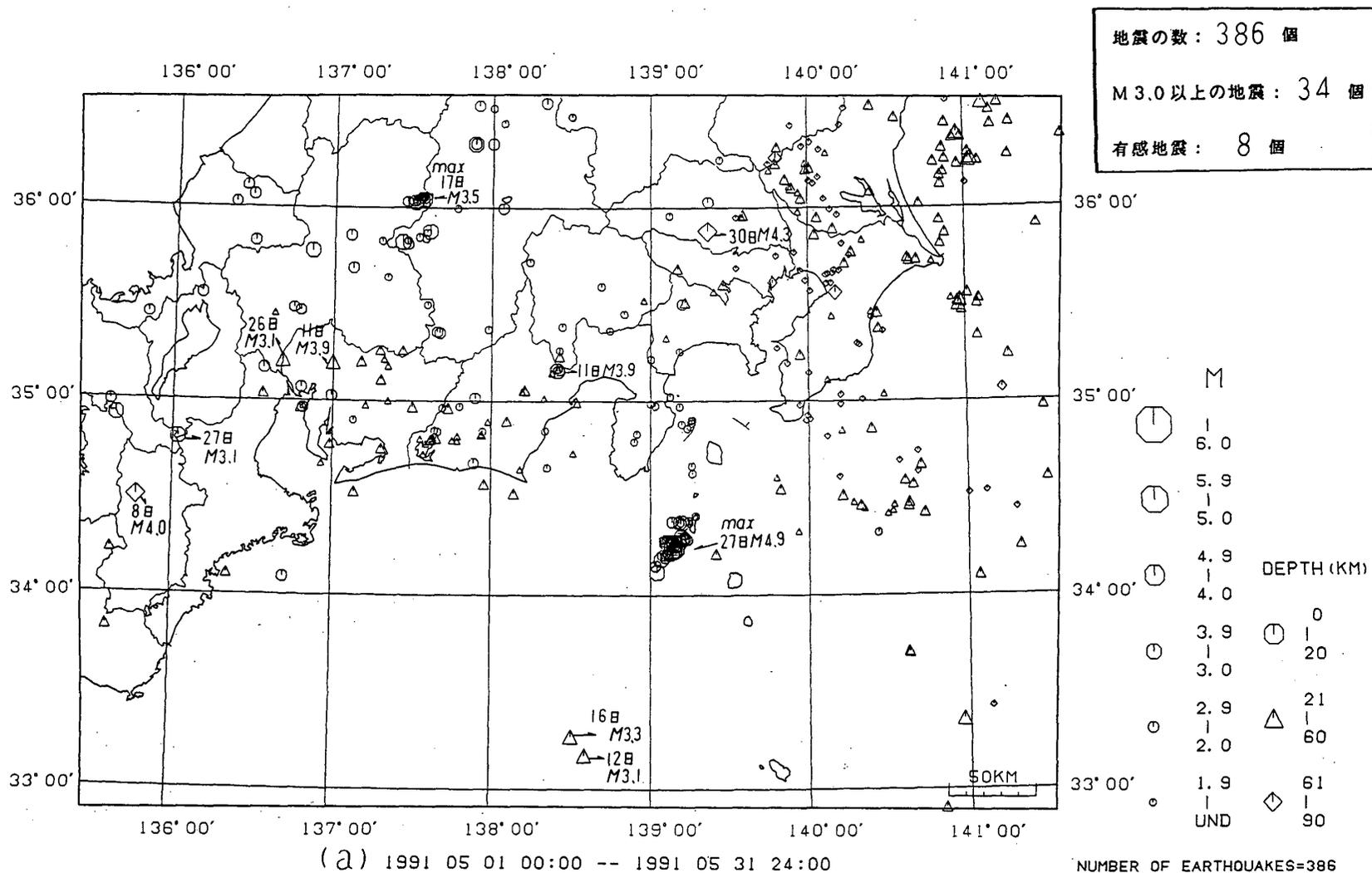
9月:Mの最大は東海はかる沖のM6.3(3日17時45分)、深さ33kmで最大震度4(三宅島)。東海地域では、東海地震の想定震源域内は静かだが、静岡県西部の8月15日からの小活動が継続したほか、東海道はるか沖でM6.3(前記)の地震が発生し注目を集めた。この地震には活発な余震活動が伴った。このほか、愛知県から岐阜県にかけてにぎやかで、M3クラスの地震が5個発生した。周辺地域では、伊豆半島東方沖のM3クラスの地震3個(いずれも有感)のほか、新島北西沖での小活動(8月28日～9月18日)が目をはひいた。また、千葉県北部で29日13時～14時にM4クラスの地震が3個<sup>注3)</sup>たて続けに発生して注目された。これらはすべて有感で深さは約80km、最大地震はM4.9であった。

10月:Mの最大は茨城県沖のM5.2(27日14時06分)、深さは32kmで最大震度2(水戸・銚子・柿岡)。東海地域は、静岡県南西部沿岸で16日にM3.1(無感)と静岡市付近で21日にM3.1(最大震度1)の地震が発生、いずれもB領域の地震。東海道はるか沖の地震(M6.3)の余震活動は下旬に入ってはぼ一段落。愛知県でM3クラスの地震が1個発生した。周辺地域は、神津島—新島近海がにぎやかで、新島北東沖と神津島北方沖で、それぞれ18日～19日及び24日～25日に発生した群発地震が目をはひいた。このほか、茨城県南西部と同県沖(前記)・神奈川県中部・長野県西部・八丈島東方沖でM4～5クラスの地震が発生したのが目立つ。神奈川中部は、今年後半から活動のレベルアップがみられ、今後の活動の推移が注目される。

注1 B領域については、本巻別項「東海地方における地震活動の変化」を参照。

注2 静岡県西部の地震活動:8月15日21時52分頃から始まる。散発的ながら9月まで続く。9月30日までの震源決定地震数は27個で深さは11～28km、有感となった地震はない。最大地震M2.6(9月30日11時03分)、深さ13km。通常、この地域では地震活動はほとんど見られていない。

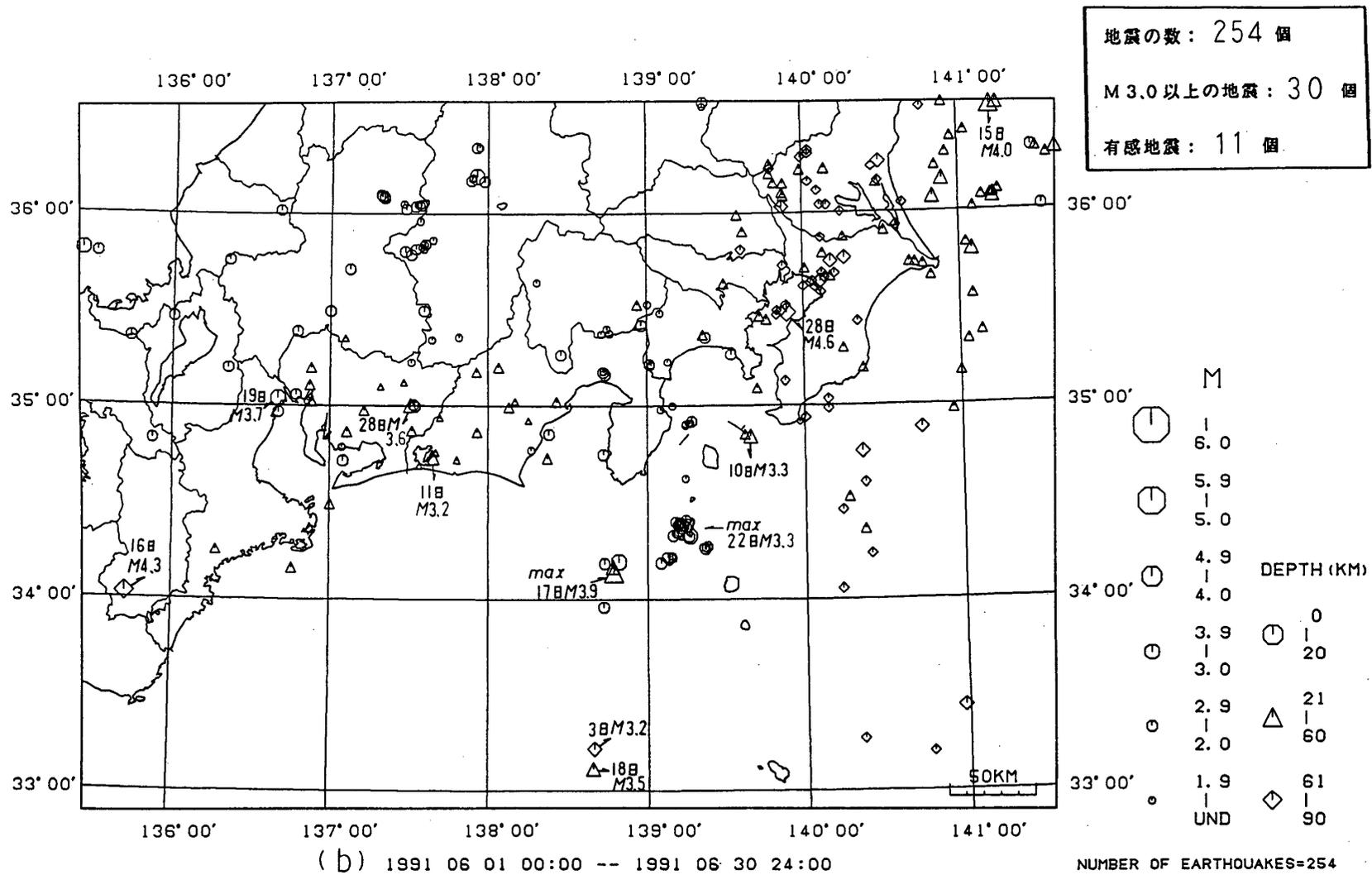
注3 千葉県北部の地震:29日13時13分・M4.9(深さ80km)・最大震度2,29日13時42分・M4.2(深さ82km)・最大震度2,29日14時00分・M4.3(深さ81km)・最大震度2。このほか、29日13時19分にM3.0(深さ78km)・無感。



(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図 (a)~(f) 東海・南関東地域に発生した地震の月別震央分布 (1991年5月~10月)

Fig. 1 (a)-(f) Earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts, May – October, 1991.

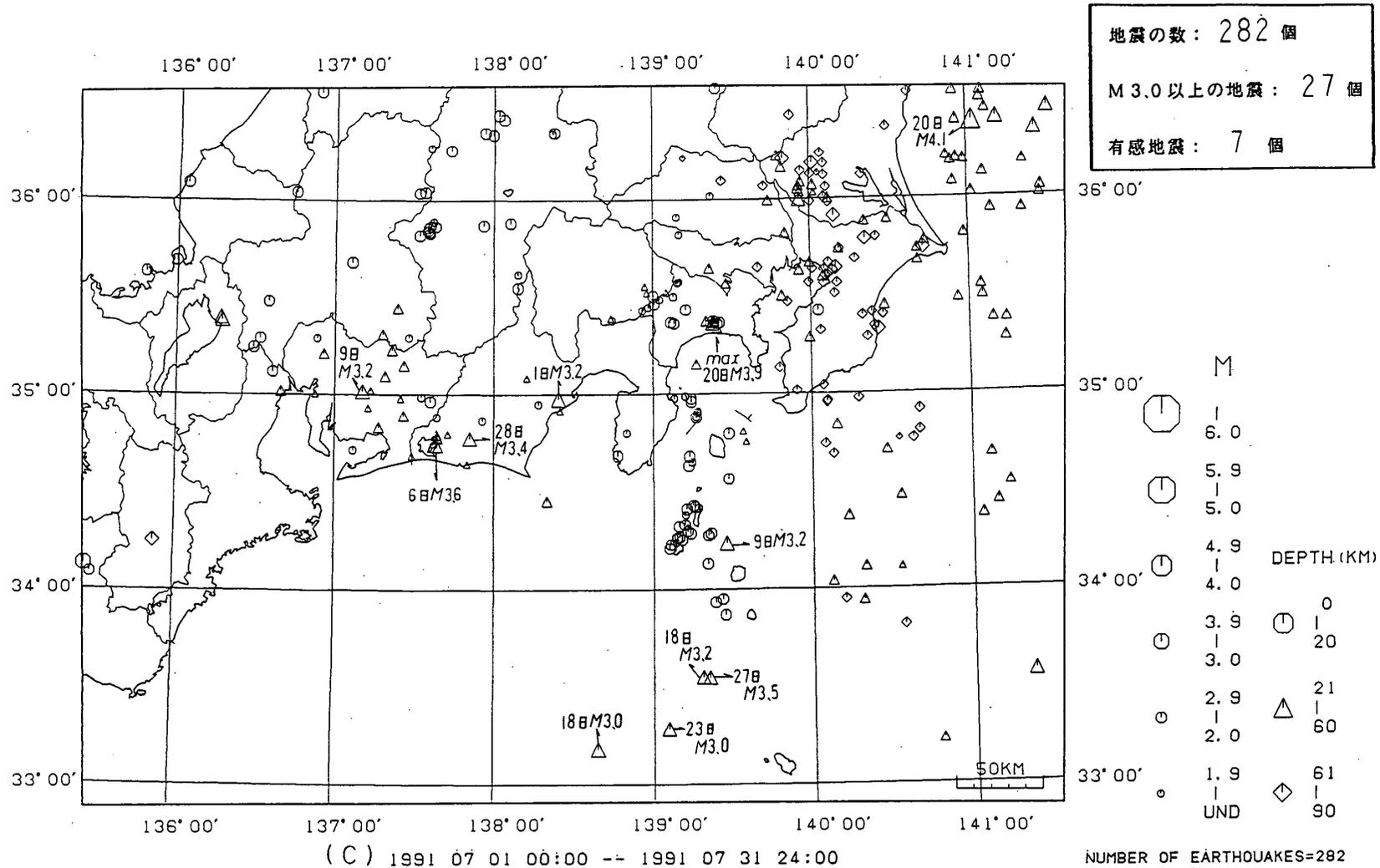


暫定

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)

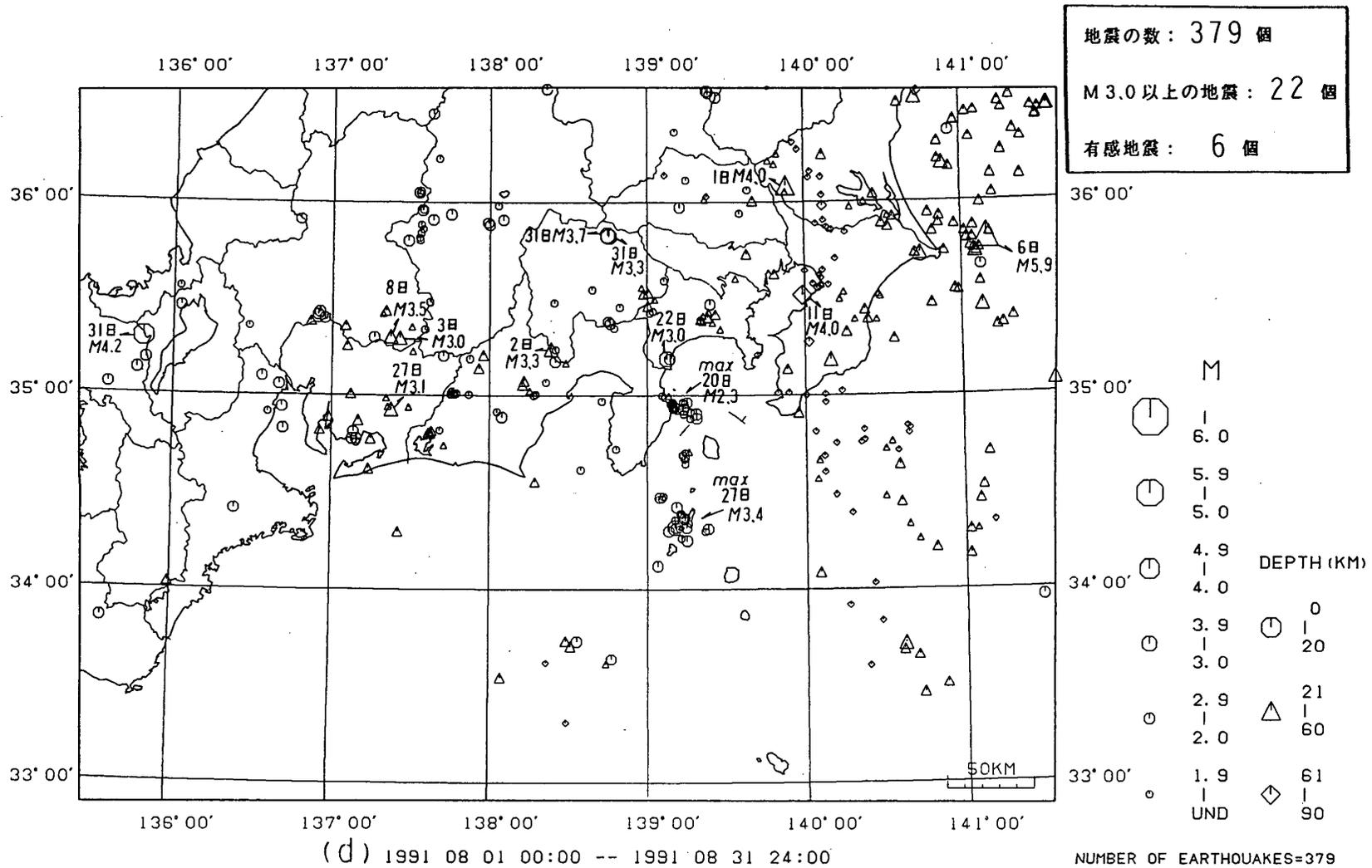


暫定

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

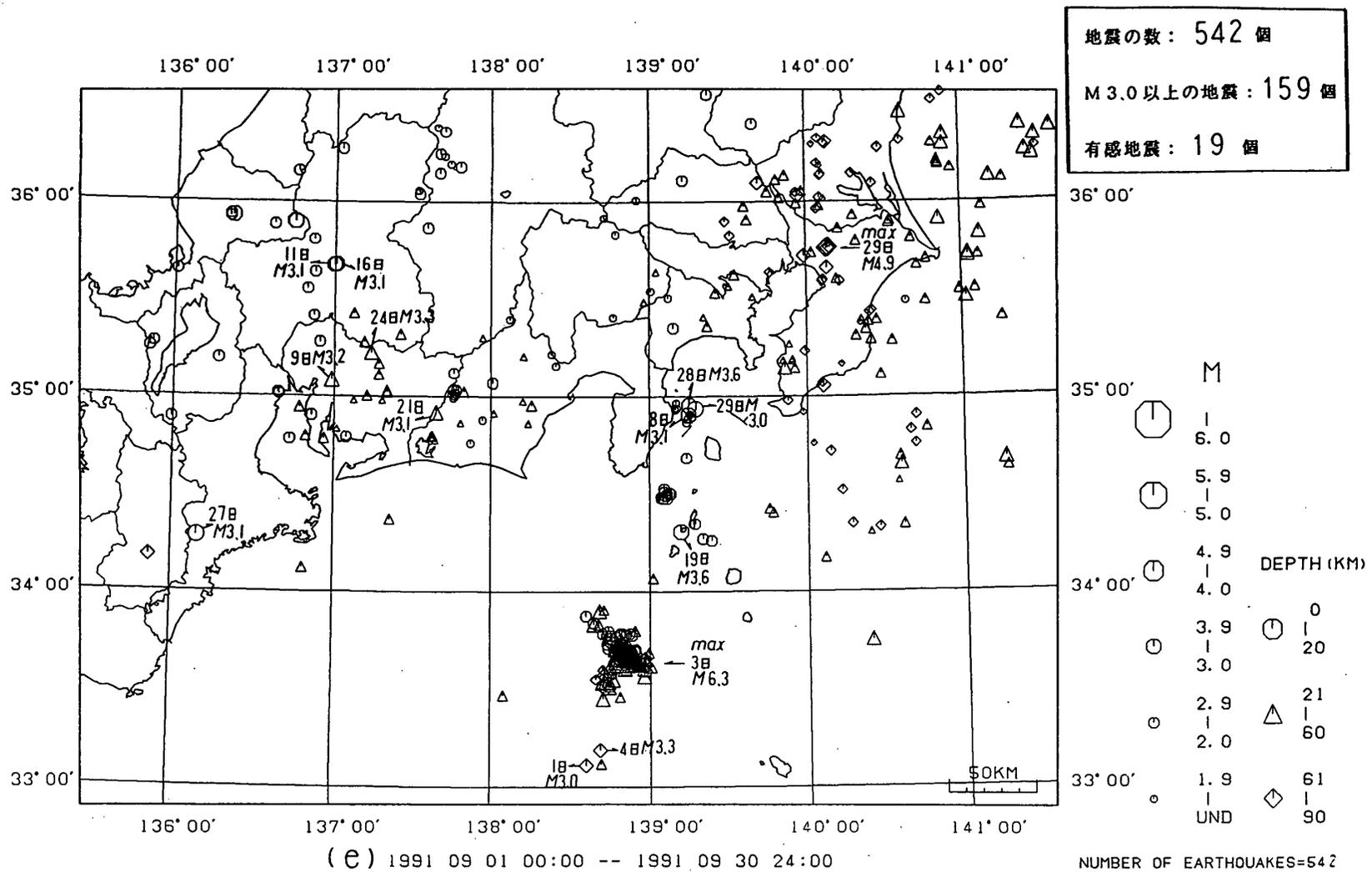
第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)



(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図 つづき  
 Fig. 1 (Continued)

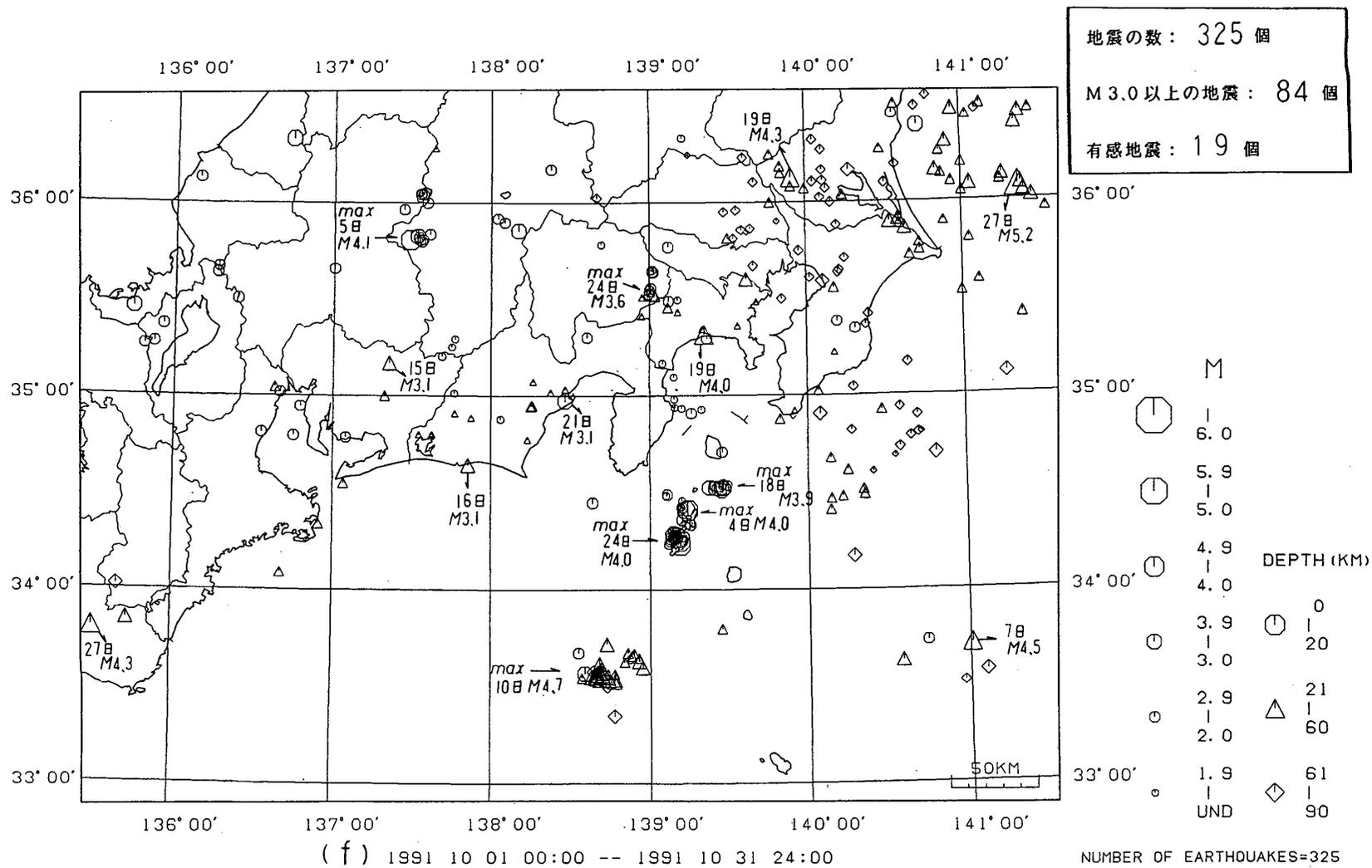


暫定

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)

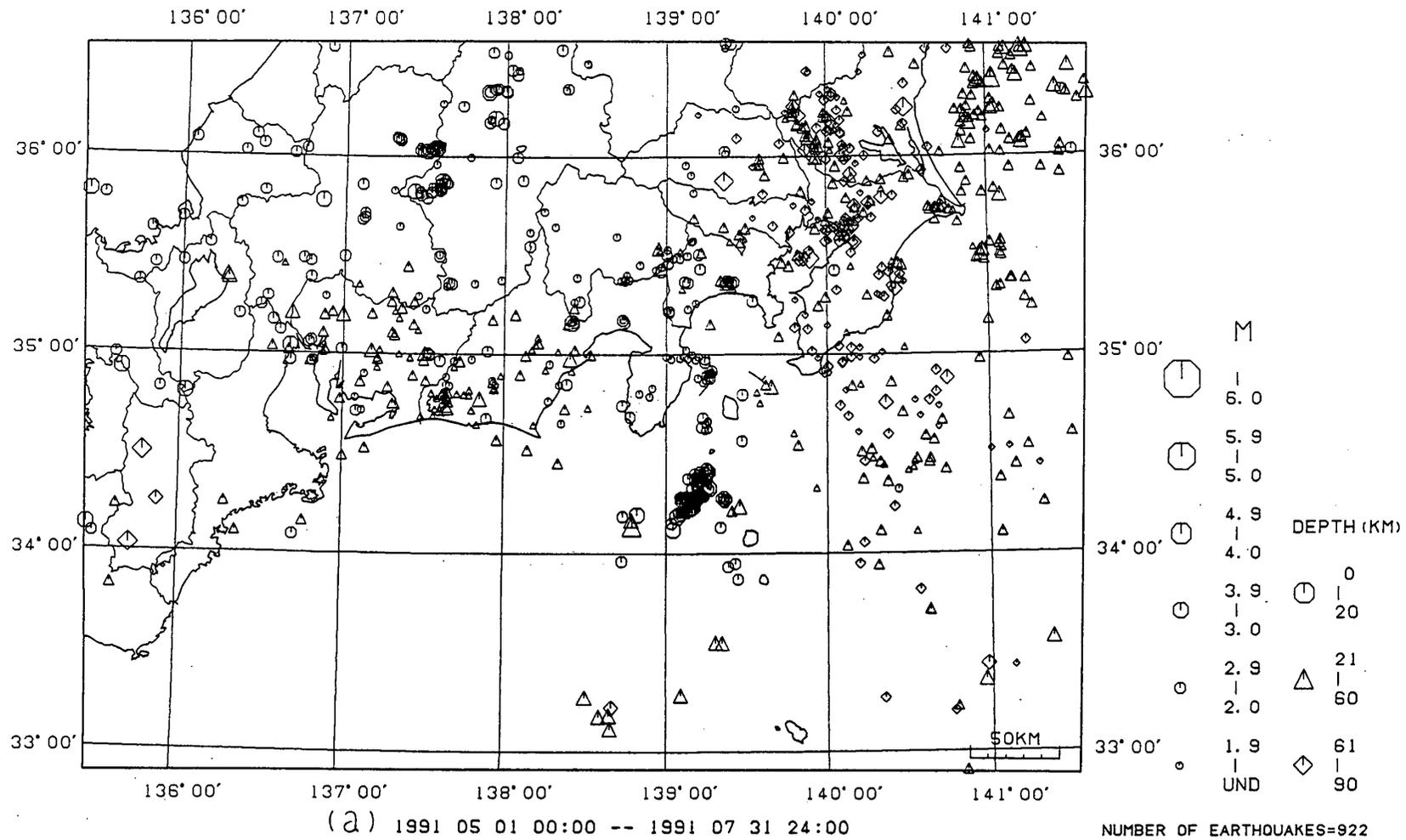


暫定

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)

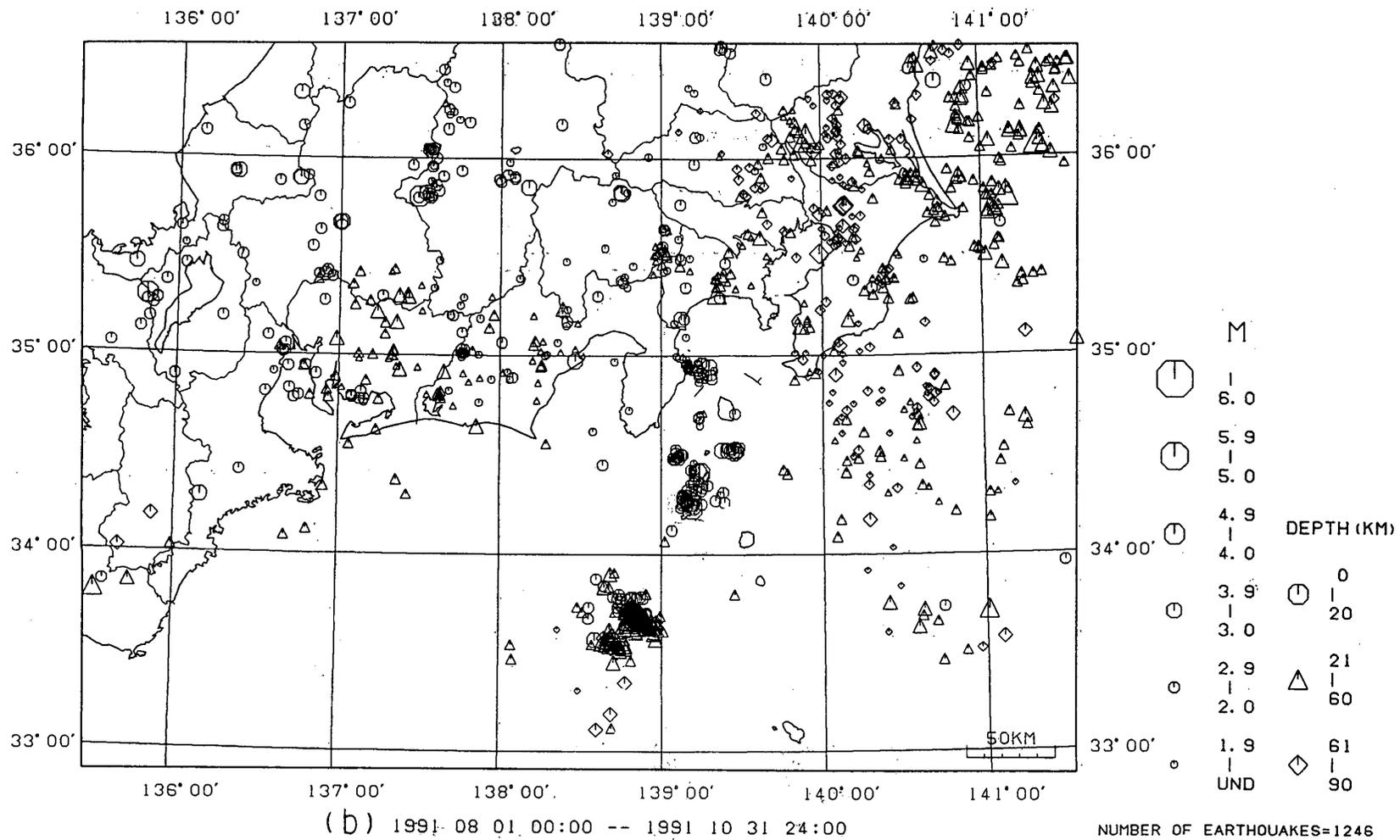


暫定： '91年6月一

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第2図 (a)・(b) 東海・南関東地域に発生した地震の3カ月毎の震央分布 (1991年5月～7月・8月～10月)

Fig. 2(a)·(b) Earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts for (a) May – July and (b) August – October, 1991.

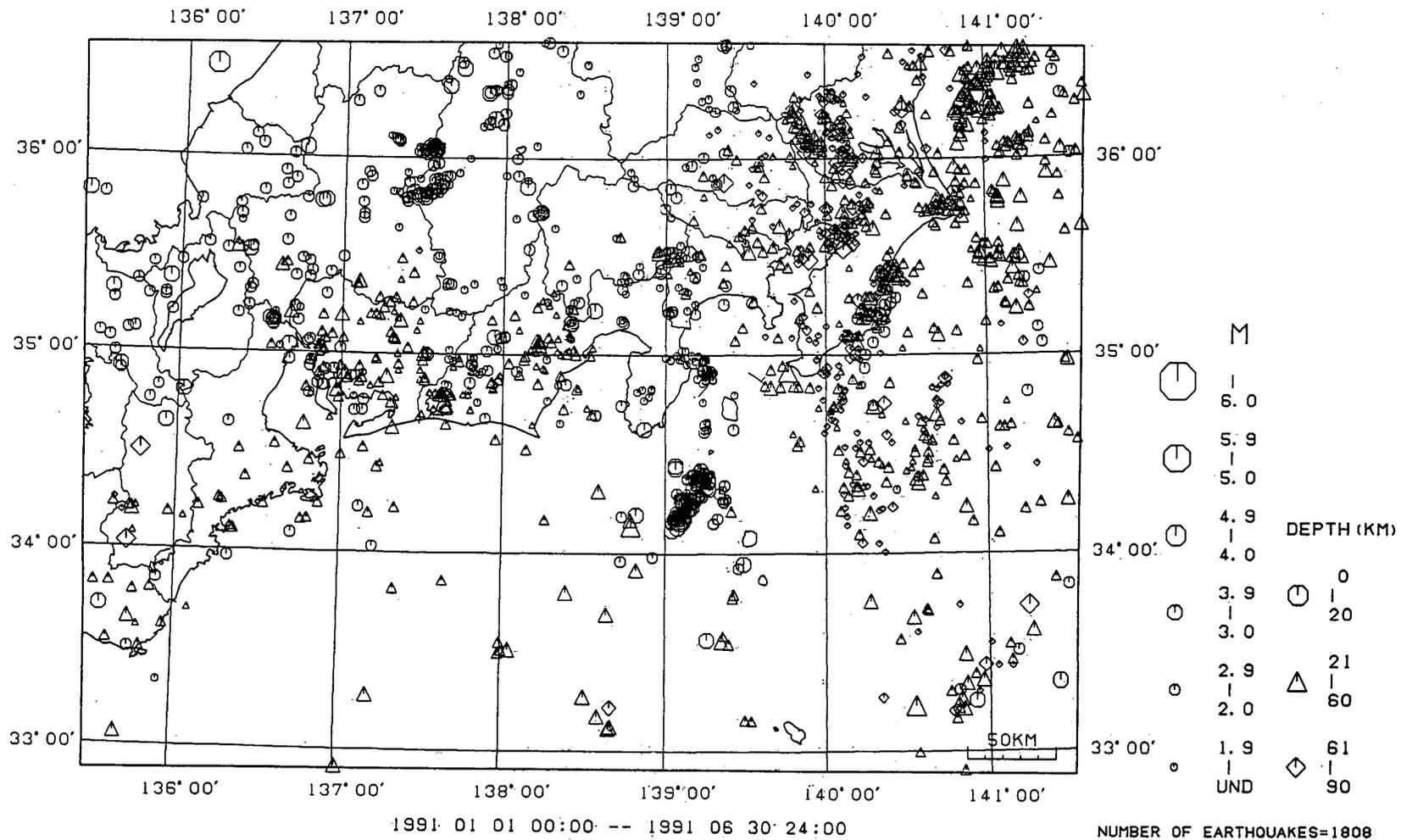


暫定： '91年9月一

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第2図 つづき

Fig. 2 (Continued)



暫定： '91年6月一

(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第3図 1991年1月～6月の東海・南関東地域に発生した地震の震央分布

Fig. 3 Earthquake epicenters in the Tokai and Southern Kanto Districts for January – June, 1991.